

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム めくもりの家		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町大字稲富712-1		
自己評価作成日	令和3年10月15日	評価結果市町村受理日	令和4年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2172600559-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ゑふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和3年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームには木々に囲まれた園庭があり、畑で野菜を育てたり季節の花々を楽しむことができます。館内は骨とう品の和ダンスや照明器具、テーブルやソファがあり、利用者様同士がいつでもリラックスしながら談笑されています。私たちは専門職として認知症の方々が生活を楽しみ、表情豊かに暮らすことができるためには何をすべきかを考えながら勉強を重ね支援に取り組んでいます。また、主治医や看護師と協力しながら、利用者様の心身の健康を維持できるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周辺には田畑が広がる緑豊かな環境にある。新型コロナウイルス感染予防対策として、家族の面会や外出を制限しているが、畑で野菜を育て、収穫する作業を共に行い、落ち葉の掃除やデッキでお茶を飲むなど、これまでの生活リズムを継続することで、利用者の認知症が進行しないよう支援している。開設以来、職員が食材の買い出しと調理を行い、利用者にはできることで参加している。畑で収穫した野菜や近隣から届く食材を活用しながら、安価な食事料金を提供し、利用者や家族に喜ばれている。医療連携と職員のチームワークで看取りの経験を重ねながら、最期まで本人・家族に寄り添った支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念についての研修会を開き、皆で話し合い確認している。管理者は日常のケアの中で理念に沿った支援ができるように指導したり、各自名札裏に書いてある理念を確認できるように工夫している。	法人の運営理念である五項目を全職員に周知し、常に振り返りながら実践している。職員は、18人の利用者が居れば18通りの生活があると捉えており、常に一人ひとりを尊重した支援を行いながら、利用者が、日々、心穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	通年は地元の行事である福祉フェアに参加したり、中学生ボランティアの福祉体験を受け入れているが現在はコロナ感染予防のため中止となっている。近所の方が野菜を届けて下さったり、散歩中挨拶を交わす等の交流は変わらず行っている。	新型コロナ感染予防対策として、地域との交流行事は中止となっている。現在は、感染拡大状況を見ながら、事業所周辺を散歩する中で、住民と挨拶を交わしたり、近隣から野菜の差し入れがあるなど、できる範囲で地域とのつながりを継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも介護相談の受付を行っている。また運営推進会議や地域ケア会議にて活動報告や研修内容の報告を少しでも知って頂ける様意見交換している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防のため、会議は開催せずに書面にて状況報告をしている。電話で気になったことや質問に対応している。グループホーム合同の運営推進会議も再開し情報交換や交流を深めている。	全6回の運営推進会議のうち、3回は同法人グループホーム合同で会議を開催している。今年度は感染予防のため、行政と相談の上で書面にて報告をしている。6月には、合同会議を開催することができ、情報交換の内容を持ち帰り、サービス向上に活かしている。	事業所で行う運営推進会議は地域参加者が区長のみである。コロナ収束後には、地域密着型の運営を更に進めるためにも、老人会、ボランティア、近隣住民、消防署、警察、学校等のゲスト参加等を検討し、参加者拡大に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議に出席したり、町の施設が参加する研修に参加し情報交換している。日頃より地域包括支援センターの方や福祉課の方と交流を図り、相談や意見交換できるよう努めている。	事業所は、地域ケア会議や町の介護種別の違う事業所が集まる研修会に出席し、行政担当者と意見交換するなど、関係性を構築している。また、感染状況やマスクの配布について、電話でやり取りするなど連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の全体会議にて、身体拘束をしないケアを徹底している。また言葉による拘束についても勉強している。帰宅願望がある利用者様にも付き添いながら拘束のない介護を行っている。	身体拘束適正化委員会を開催し、職員会議で情報を共有している。帰宅願望の症状が4ヵ月ほど続いている利用者には、薬での対応ではなく、職員が寄り添い見守りで対応している。また、止むを得ず拘束が必要な場合の家族同意書や手順等の様式を備えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の全体会議にて法令をもとに勉強会を行っている。施設で起きやすい事例をもとに職員同士虐待が見過ごされることがないように努めている。また職員が心にゆとりを持って働け、ストレスを軽減出来る環境づくりに努めている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料を用い、職員の全体研修で学び理解している。実際に制度についてご家族と話し合い、活用されている方もいたため制度の必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居見学時よりパンフレットを用い説明を行い、実際入居される時にも契約内容、重要事項等、十分時間をかけて読み合わせをし、一つ一つ納得されるまで行っている。また随時質問を受け付けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話で普段からコミュニケーションをとり意見を聴いたり、ケアプラン更新時に書いて頂いた意向をケアに取り入れている。また、従来の近況報告を改善しお便りとして、個々に生活の様子を記載してご家族にお伝えし、意見交換のツールとして役立てている。	家族のニーズに合わせてながら、庭や駐車場の面会を行ったり、電話で利用者の様子を伝えている。また、日々の暮らしぶりや健康状態を記載した便りも発送している。今年入居した利用者家族には、便りの発送周期やケアプラン更新時期を説明し、不安のないよう配慮している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回管理者会議を開催し、代表者と活発な意見交換をおこなっている。各管理者は職員からでた意見や要望を伝え改善できるように話し合いをしている。	職員会議で出た意見や要望を、法人全体の管理者会議で話し合い、職員会議でフィードバックしながら、運営に反映させている。職員の働き方を尊重した結果、非常勤職員が多くなっているが、それぞれの得意分野を活かせるよう考慮しており、職員の勤務年数も長い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の得意分野が生かせる様役割分担しやりがいのある環境づくりをしている。また家庭の事情に合わせた勤務体制に考慮し両立出来るようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員のレベルアップを念頭に考え、経験年数と能力に合わせて積極的に研修に参加する様勧めている。また施設内でもケアのレベルアップが図れる様スキルアップ研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	揖斐川町主催の研修や協力機関の勉強会に参加し、他施設の職員と交流し情報交換や意見交換を行っている。コロナの対応など研修を受け役立てている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談で現在の悩みや困っている事、要望等を伺い入居後安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で時間にゆとりを持ち、今までのケアの経過や心配事、悩み等を伺っている。また、様々な要望にお応えできるように、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様、利用者様のお話を傾聴する段階で、その中に含まれている不安や要望などを感じ取り、適切なサービスができるように努めている。また、必要に応じて他のサービスを紹介したりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	挨拶や会話、行動の中から利用者様の好む事、安らぐ事などを感じ取り、それを取り入れた支援に努めている。一緒に家事をしたり季節の花植え、草取りなどを楽しんで頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に日常の様子を詳しく伝え、利用者様とスムーズに関われるようしている。入居して家から離れたが、共に支援しているという気持ちを持っていただけるように、情報交換に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が継続できるように、ご家族にも協力いただき取り組んでいる。ご家族に会いたいという希望でドライブしながら職場を訪ねることもあった。コロナ禍の中、外出が思うように行けないこともあるが、なるべく安全に希望に沿った支援を継続したい。	家族の協力を得ながら、馴染みの場所へ出かけるなどしていたが、コロナ禍の今、家族の訪問を制限していることもあり、今までのような支援が難しい。利用者が希望する場所へは職員が個別に対応し、感染予防対策をした上で、できる範囲で関係継続を支援している。収束後には、今までのような支援を再開していく予定である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症状があり、関係作りに困難な場合もあるため職員が間に入りお互い理解できるように支援している。どうしても気の合わない方とは無理に付き合わず、席やお部屋を替わるなど工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所、ケアマネと情報交換している。また、いつでも相談にのれるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族の要望(事前に意向書を記入していた)を担当者会議で伺い作成している。また、認知症状で意向が把握できない利用者様の場合もあるため、職員が代弁したり皆で検討している。アセスメントを丁寧に取り、思いや意向の把握に努めている。	本人や家族から、これまでの生活歴を丁寧に聞き取り、その人らしい暮らし方が継続できるように努めている。日常のケアの中で、利用者の新たな側面を発見した時には、職員間で情報を共有し、ケア計画に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に今までの生活や暮らし方を伺い、習慣や性格を早く把握できるように努めている。また、関係者(主治医・他事業所・ご家族・近所の方)からも情報提供をいただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントを定期的に見直して現状の把握に努めている。とくに健康状態・食事・睡眠等は介護記録簿とは別に一覧表にして毎日記録し、職員が把握しやすいように工夫している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を常に意識できるように介護記録簿に記載し、モニタリングも兼ることができるよう工夫をしている。担当者会議でご本人、ご家族、管理者などを交えて話し合い、現状のニーズに沿った計画書作成に努めている。	個別介護記録簿には、予め計画書のケアプランニーズを明記し、常にプランを意識した支援を行っている。また、4ヵ月毎のモニタリングにも記録簿を活用し、担当者会議には、利用者と家族参加の上で、意見交換し、計画作り及び見直しを行っている。家族の意向書も事前に配布している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一日の様子や心身状態は、介護日誌・体調管理表に記録し、情報を共有している。また、毎日ケアプランの目標がなされているか確認している。特記事項は共通の連絡表に記入して迅速な情報把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々利用者様とご家族のニーズに沿えるように柔軟に対応している。例えば、施設内で散髪してほしいという希望に訪問美容院に来てもらったり、資格ある職員が散髪したりしている。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーや喫茶店、コンビニ、診療所、消防署、公民館等の地域資源を活用しながら、豊かに生活できるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の希望によりかかりつけ医を選択していただいている。当施設の協力医が月2回の往診を行い健康管理をして早期発見につながっている。また、急変時に対応して安心して適切な医療が受けられるように支援している。	協力医の定期往診があり、本人の希望で接骨院の訪問リハビリや歯科医の往診を受けることも可能である。従前のかかりつけ医を選択している利用者もある。看護師が職員として配置されており、不在時の利用者の健康管理や急変時の対応を適切に行えるようオンコール体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師、介護職員が協力し、特に寝たきりの方や体調不良の方には注視しながら支援している。往診時には看護師や介護職員が立ち合い、話し合いながら適切な医療が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供書を渡したり、認知症状を詳しく伝え適切な治療が受けられるようにしている。また、早期退院ができるようカンファレンスを行い情報交換をしながら関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期を迎えた時は、主治医によるカンファレンスをご家族と一緒にしている。入居時に方針を説明して早い段階から希望を聞いているため、方向性が決まりやすい。当施設で行う終末期の期間はご家族や親戚の方と十分に時間をとり、過ごしていただいている。	看取り支援については、経験を積み重ねた職員もおり、医療関係者と連携しながら、利用者と家族に限られた時間を大切に過ごせるよう、全職員が一丸となって支援している。看取り後には、家族と共に自宅に帰る人を職員と一緒に見送りをする利用者もある。後日、職員間で看取り支援を振り返り、新任者は経験者から学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時に備えて、適切な対応ができるように職員研修を行っている。連絡体制も見やすいところに掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の災害訓練を消防署の指導により行っている。ハザードマップを活用し特に土砂崩れがおこった時に避難できるように訓練した。また、備蓄も計画的に準備している。今後も地域の防災訓練に参加するなどして協力体制を強化していきたい。	今年度は年2回の災害訓練を事業所のみで行い、消防署へ「消防訓練実施結果報告書」を提出している。土砂災害を想定した訓練や、指定の避難所まで利用者と歩き、確認を行っている。災害時において、全職員が迅速な行動ができるよう、定期訓練とは別に自主実践訓練を行う事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の性格を知り、丁寧な言葉使いで接するように努めている。お部屋に入る時はノックをして入ったり、トイレや入浴時の介助ではプライバシーに気をつけ、尊厳を保てるような声かけをしている。	利用者の性格や生活歴を考慮しながら、これまでの生活スタイルを尊重した対応に努めている。利用者にかかる言葉遣いや対応については、職員間で注意し合い、接遇研修でも学んでいる。居室に入室する際には、声かけやノック、トイレ使用時にはカーテンを引くなど、どの職員も自然に行なっている。	職員は、利用者尊重やプライバシーの確保について、接遇研修で学んでいる。今後も、更なる利用者サービスの質の向上を目指し、職員各自が自己チェック票等で、支援の確認を行う工夫にも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活や活動、行事などご本人が納得して行動していただくように働きかけている。また、できることを促し継続できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間やお茶の時間など、その方の生活スタイルに合わせて提供している。皆がそろって活動することよりご本人の心地いいと思う時間を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の中の洋服や整容など、ご本人に合わせて身だしなみが整えられるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑の野菜を献立に入れたり、季節の食材を取入れている。個々の好き嫌いを聞き、献立内容を変更する時もある。料理の下ごしらえや片づけを一緒にしながら食事時間が楽しめるように工夫している。	献立は栄養士が作成し、庭の畑で収穫した野菜も活用しながら、季節感ある食事を提供している。現在は今までのように、準備や片付け作業等に利用者が関わることは難しいが、野菜の収穫等は一緒に行っている。朝食はパンとご飯が選択でき、居室で食べたい利用者の希望にも応じている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日を通して、水分量や食事量を確認している。お食事を残されたときはおやつで補ったりする等、個々に応じて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、清潔を保てるように支援している。歯の治療が必要であれば協力歯科医に往診してもらい対応している。		

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけトイレで排泄していただけるように、声かけや誘導が必要な方には個々に対応している。足の不自由な方や認知症で場所がわかりにくい方にはトイレから近い部屋にするなど自立が保てるように工夫している。	利用者一人ひとりの排泄状況を把握し、トイレでの排泄ができるよう支援している。トイレまで距離があった居室の利用者は、排泄の失敗が日中の行動にも影響が見られたため、トイレに近い部屋に移動したところ、失敗が減り、自立の維持につながった事例がある。常に、個々の利用者の状態に合わせた支援を工夫している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録を付け、便秘気味の方には運動や水分補給を勧めたり、日ごろから便秘にならないようにバランスの取れた食事を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本は週2回の入浴日であるが、週4回程度希望される方もいる。時間帯も希望に合わせて行っている。必要な方は介助をしながら安全に行い、一人ずつ個浴を楽しんでいただいている。	基本の入浴時間帯を午前中としているが、午後の希望にも対応している。浴室や脱衣室の室温、湯温を適切に保ち、介助が必要な人は安全に入浴できるよう支援し、ゆっくりと入っていたい人は、十分に満足できるまで見守るなど、個々に合わせた入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝具を清潔に保ち、季節ごとに調整しながら気持ちよく眠れるように支援している。就寝時間もそれぞれ習慣に合わせている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師を中心に薬の管理をしている。誤薬がないように注意を払い、薬の内容の理解に努めている。薬が変更になったときは様子を見て主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	できる方は身の回りの片づけや掃除をしたり、家事を手伝ってもらう等役割をもっている。畑や庭の手入れなどお好きな方にしてもらい楽しみにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため、遠方への外出は減ったが近所を散歩したいという希望に応じたり、スーパーやコンビニに行っておやつを買ったりと個々の意向にそった外出支援に努めている。	コロナ禍の今は、集団で行動する外出支援は自粛している。近くの店への買い物に個別で出かけたり、散歩や庭の畑の世話、落ち葉の掃除、デッキでお茶を飲むなど、出来る限り外気に触れて気分転換ができるよう支援している。	

岐阜県 グループホームぬくもりの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持できる方は、欲しいものを購入したり自由に使用している。希望に合わせて買い物へ行きお金を使うことを支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方には電話を使用してもらいご家族と連絡を取っている。年賀状や手紙のやり取りをするのを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	骨とう品の和ダンスや照明器具などを置き、落ち着いた安心できる空間作りをしている。ソファやテーブルセットで思い思い時間を過ごされ、利用様同士が談笑されている。季節の飾りや花を飾って楽しんでいただいている。	今年度も、感染予防対策として、共用空間及び居室については、リモートでの確認となった。リビングは、窓から自然光が入り、明るく開放的である。木のフロアとレトロな調度品、暖色系のカーテン、間接照明にも温かみがある空間である。随所に花を飾り、ゆったりと座れる椅子やテーブルも複数設置されている。清掃と整理整頓が行き届き、利用者が落ち着いて心地よく過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル、ソファ、テレビ等を配置して、好きな場所で好きなように過ごせる空間作りをしている。またウッドデッキにベンチを置き外気浴しながらお茶を飲んだり自由に過ごせる工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人のお好きな物を持ち込み、生活感ある空間作りに努めることで安心して生活していただいている。また、その方の体力に合った動線作りも工夫している。	居室は広く、ベッド、ダンス、テーブルセット、ソファ等を利用者の動線を考慮しながら、安全に配置している。防火用カーテン等の備え付けもある。利用者は、使い慣れた身の回り品やテレビ等を持ち込み、出窓には手作り作品や家族の写真、季節の花を飾り、居心地よい居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを使用して歩いたり、自室がわかるようドアを色分けしたり工夫している。段差を少なくして安全に生活できるように環境を整えている。		